

## 洋書輸入協会会報

VOL. 18

NO. 11

(通巻 211 号) 昭和 59 年 11 月

## 理事会報告

9 月 26 日(水)

## (一) 7・8 月収支計算・予算対比表

9 月 7 日(金)の総務委員会での検討にもとづく事務局長の報告を承認した。

## (二) 脱会届

9 月 12 日付けの(株)日米センター(広島市)の脱会届を受理し、9 月 30 日に脱会することを承認した。

## (三) 西ドイツ出版社代表团

11 月 6 日に理事会と会談したい旨の連絡があったので、小林英一理事長代理(丸善)がフランクフルト書籍展で打合せすることとした。

## (四) 関西支部会員と理事会との懇談

関西からの理事の出席を得た上でまとめることとした。

## (五) エルゼビア・サイエンス・パブリッシャーズ

8 月 30 日付けの手紙を同社へ送ったことが渉外委員長山川隆雄氏(ユサコ)から報告された。

## (六) 化学情報協会および Chemical Abstracts Service

両者に対して理事長名で JBIA の意見を明らかにした書状を送ることとした。

## (七) その他。

10 月 11 日(木)

## (一) 9 月分収支計算・予算対比表

10 月 5 日(金)の総務委員会での検討にもとづく事務局長の報告を承認した。

## (二) 第 16 回洋書まつり

10 月 5 日(金)、6 日(土)の両日東京古書会館で開催された第 16 回洋書まつりについて委員長服部貞夫氏(国際書房)から報告があった。売上げは昨年を大幅に上回った。

## (三) 西ドイツ出版社代表团

11 月 8 日(木)2 時から理事会と話合うこととなった。

## (四) 会報合本

101 号から 200 号までの合本の販売価格および頒布方法について審議して、決定した。(JBIA No435 を参照)

## (五) ALPSP 代表团

イギリスの ALPSP ミッションの来日にあたり、11 月 5 日(月)3 時から理事会との話し合いを行なうこととなった。なお、当日午前 10 時 30 分から丸善・紀伊國屋両社により、雑誌・書籍のそれぞれの事情についての説明があり、夜はブリティッシュ・カウンスル主催のレセプションがひらかれることとなっている。

## (六) 国税庁への提出書類

国税庁から要請のあった書類提出については、前回に提出した 56 年度と同様な書類を提出することとした。

## (七) その他。

|                    |                            |                |
|--------------------|----------------------------|----------------|
| 理事会報告…………… 1       | 住所移転のおしらせ…………… 2           | 来日外人名簿…………… 7  |
| 文化厚生委員会だより         | オンライン時代における                | 総代理店ご案内…………… 7 |
| 第 12 回麻雀大会…………… 2  | 情報流通 II …………… 3            | 広 告…………… 8     |
| 書籍展示会のおしらせ…………… 2  | Price correction …………… 6   |                |
| 第 16 回洋書まつり…………… 2 | Book Review No.103 …………… 7 |                |

10月26日(金)

## 第16回洋書まつり

(一) 英国 ALPSP 代表团・西ドイツ出版社代表团

両代表团との話し合いについて打合せた。

(二) 洋書輸入協会の法人化

10月5日(金)総務委員会で討論された結果が松井幸雄氏(丸善)から報告され、文書「洋書輸入協会公益法人化に伴う問題点」が提出された。各理事がこの文書を熟読した上、次回の理事会で検討することとなった。

(三) 「ダイレクトリイ」85年版

委員長石内茂吉氏(東光堂)から、広告料を据置くこと、ならびに例年通り作業を進めることが報告され承認された。

(四) その他。

文化厚生委員会だより

## 第12回 麻雀大会

洋書輸入協会主催の第12回麻雀大会は、神田スズラン通り「ポニー」に於いて、去る10月12日(金)に盛大に開催されました。大会開始前すでに顔見知りの人、新規のメンバーの人、お互いの舌戦があり、いよいよ6時30分クジ運の良い人も悪い人も各々の卓へ、総勢二十四名が協会ルール(45分打切り完全先づけ等)にもとずき半荘3回戦のはじまりとなりました。最近は自動の卓が多くなり、手の感触によるたのしさが無くなって来たのがオールドファンの人達に取ってはさびしいように見えました。回を増す毎に各卓でいろいろな声が上がり、盛り上がった大会になりました。終了後ビア・パーティにもぎやかに、話しがはずみ散会となりました。

結果は次の通り、

優勝 金木(原書店)

準優勝 久田(三洋出版)

三位 三輪(ハーバー)

の諸氏となりました。大会における幹事のゲーテ書房村山氏、白水社本多氏のお世話に深く感謝申し上げます。

### 書籍展示会のお知らせ

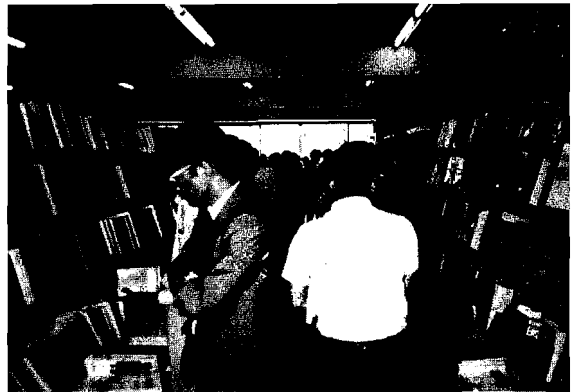
第12回 イェルサレム国際書籍展示会 1985年5月5日  
—10日 イェルサレム

The 12th Jerusalem International Book Fair

ここ神田駿河台下東京古書会館では数百人の人波が、興奮興奮また興奮、顔面真っ赤、額から汗をドバァッ、目は血走り、手は震え、本の山とバトルロイヤルの観を呈しております。空前絶後、前代未聞の大乱闘。プレーンバスターが出ます。パイルドライバーだ。ニークラッシュだ。おッーと。コブラツイストだ……。古館伊知郎風に中継するとこんな具合になるでしょうか。

第16回洋書まつりは、秋晴れのつづく10月5・6日の両日、例年どうり東京古書会館で開催されました。好天、宣伝、広告、あるいは「洋書まつり」が愛好家の間に定着したからでしょうか。たいへんな人出、そして売り上げでした。2日間に1,000人以上のお客様が入場し、6,182点の洋書が売れ、410万円の売り上げを計上しました。未曾有の大記録です。今までの売り上げ記録337万円をはるかに越えた空前の数字になりました。9秒に1点ずつ売れた勘定になります。21社が参加したこの催し、来年もまた成功させたいものです。

皆様ありがとうございました。来年もよろしく願い  
申しあげます。(SN)



### 住所移転のお知らせ

次の通り移転通知がありましたのでお知らせします。

新住所:

株式会社ブックス・フォア・ジャパン

〒160 東京都新宿区大久保3-14-9

☎ (03) 208-3721 (従来通り)

# オンライン時代における情報流通 II

——書店はどう変貌するか——

(講演 昭和59年7月27日(金) 於：学士会館)

日本科学技術情報センター業務部長 小林 和 雄

## 1.2 一次情報蓄積・提供の先端技術化

### ——Electronic Library

一次情報の蓄積提供が最近、エレクトロニックライブラリーという次元で捕えられるようになりました。エレクトロニクスの技術によりまして、皆さんご存じのような光ディスク、光ファイバーをベースとして、情報の蓄積提供の効率化が一段と身近になってきました。スピードが上がり、蓄積に関してネットワークが組める、ということでその機能が見直されております。これは、世界の情報センターを震撼とさせるような問題でございまして、二年前、大きな話題となった ADONIS というのは、米国からの参加予定の出版社が表向き独禁法の面から一頓挫し、一説には幻の ADONIS と言われましたが、最近復活の兆しを見せております。つまり ADONIS の商標が各国に登録されまして、1985年、1つの実用化計画が発表されています。本年行なわれた国際学術連合アブストラクトボード (ICSU-AB) における国際会議の席上、その動向が発表されました。それによると、トンプソン社の光ディスク (大体1枚につき、文献が6万ページを収納) により文献を蓄積して迅速な提供をはかるとしており、ADONIS の復活計画はかなりしぶとく行なわれていくようです。旗振りには Elsevier 社で1985年には実働開始になる予定で、着々と準備体制を整えています。ヨーロッパに話がとんだので、こゝで西ドイツの情報ネットワークについて触れておきたいと存じます。西ドイツでは、情報活動は分散的であり、専門グループが16ございます。専門情報活動の各テリトリーを FIZ と称しますが、その中で、FIZ 4 (いわば第4専門情報センター) はエネルギー、数学、物理を守備範囲とする専門情報組織です。この所長は Rittberger とい、なかなかやり手の人でして、西ドイツの国産データベースの育成というよりも外国からの導入データベースに極端に斜傾した点でドイツの情報活動に一大旋風を巻き起こしました。例えば、テリトリー別では、物理、数学、エネルギーという看板をかかげていたものゝ、西ドイツにおける諸情報センターのホストコンピュータの機能を

カールスルーへにおき、その主管業務 (物理、数学、エネルギー) 以外についても、各種のテリトリーに対して各種 FIZ に対するホストとしての機能を維持し、中枢の機関としての地歩を固めつゝあります。といて、FIZ 4 は自己のテリトリーについてはその責を全うし、例えば INIS のデータベース、これは原子力のデータベースで国際協力によって入力しています。それから INPADOC をも導入ベースとして扱っています。これ等のデータベースについては FIZ 4 の性格からそう不自然とはいえませんが、西ドイツにおける化学のテリトリーを受持っている FIZ 3 をさしおいて米国の CAS と提携を深めたことは西ドイツのみならず、ヨーロッパ各国に衝撃を与えたようです。FIZ 4 はホストコンピュータの機能のある面では過剰に活用して分散型の西ドイツの情報活動におけるたて割り流通を一挙にくづしているように伺えます。大型のコンピュータとネットワークとによって流通の構図が基本的に変るというサンプルといえましょう。この FIZ 4 は特許情報の図形を光ディスクに蓄積して特許の提供サービスにも意欲をもっています。特許情報提供の FIZ も、もともと別に存在しているのですが、現在の西ドイツの FIZ 4 の動きにより、分散型の情報活動パターンが塗りかえられつつあることは事実です。CAS オンラインはご存知のように、CAS の中で非常に充実したシステムなのですけれども、それが衣替えを致しまして STN によるサービスとなります。この STN に、FIZ 4 の特許情報の図形が光ディスクを使ってアクセスされる。つまりコンピュータネットワークが新しい国際的情報流通を確立しているということがまのあたり解ります。それからイギリスの BLLD では、European Space Agency の衛星を利用して提供を行なう計画をたて、います。Electronic Delivery Project APPLD と言われている計画です。国際的には、巨大なデータファイルが光ディスクに貯えられ、極めて巨大化したソースからネットワークにより末端利用者に渡るといふ流通革命が現実化したということになりましょう。今まで述べたお話を基盤に致しまして、書籍流通の

話に軌道修正しながら問題点を煮つめていきたいと思います。

## 2. ニューメディアの開花の中での黒船論(対応を迫られる業種)

先に述べた「情報検索から業務処理(予約業務)機能を求めるニーズ拡大」は非常に大きな問題でございまして、書籍流通業を根本からゆさぶるような問題ではなからうかと思っています。それは確か、紀伊国屋書店発行の“KINOLINE”4月号に載ったと思うのですが、DIALOGのファイル471というのがお知らせとして紹介されています。

John Wiley & Sons, Inc. が出版している書籍を中心に出版物を収納しているデータベースで、通称 Wiley Catalog/Online と称します。既に発行されているもの、あるいは出版予定のもの、発行中というようなものについて約3万点蓄積されていますが、特に、カレント的な1万点に対しては強い需要があると思われます。単に出版物の紹介だけであれば、これは書籍の流通にとってさして影響を与えませんが、やはり、先程、申し上げたオーダリングが出来ます。要するに、検索用端末を持っていれば、操作をして、ダイヤルオーダーがごく簡単に出来るわけです。ファイル接続料——つまり電話回線を通してその接続料——は、1時間に60ドルですから、1分間1ドル、つまり240円、それにオンラインプリント料が1記事当たり大体20セント位、ですから適正な価格でオーダリングできるわけです。こういうものが書籍の発注メカニズムとして登場してきたわけです。このお話は、はじめに問題提起として致しました JOIS における複写発注のオーダー、西ドイツのビデオテックスにおけるホテルの予約の Ham-Ans などと思想的には、非常に相通するものです。JOIS のオーダー料金は通常の検索時の接続料金に比して非常に低価格であり、JOIS は文献検索する場合1分間210円なのですが、現在は1分間30円です。従来手書き伝票を使い、メールによって複写申込みをしていた時に比して、これは大変なコストダウンになります。当然のことながら、複写の手書きの依頼数は停滞し、次第にオーダーに誘導されてきました。この1分間に30円というのは、ちょうどキャプテンシステムが1分間30円という申請が郵政省に出された際に非常に面白く感じました。キャプテンシステムも、先程のプレステルやビルトシルムと同様、在宅予約をす

ることができます。在宅予約をするという形で1分間30円という利用が定着するとしますと、1分間30円でオーダーが落ちついてきたことは、どうやら先見の明があったというべきでしょう。公衆回線を使って1分間30円という考え方をある程度妥当のものとして評価するようにプレステルでは数年前に換算して1分間20円位(英国内)だったと思います。このあたりが世界的な常識としておちつくのかも知れません。そこで見ますと、先程の Wiley Catalog/Online というのは、1分間1ドルですから、240円で、高いというお話しになりますけれども、この点については VENUS-P を使ってアメリカの方から送られて来る情報を選択して直接オーダーするのに、手間ひまか、らぬ点を考えるとかなり経済的なオーダリング方式だと思っています。

ところで、こうした書籍のオーダリングシステムは日本の国内でも日販、東販が NOCS, TONETS の中で実現させていますが、国際市場の中でこれが一つの定形的パターンとして、これはクロズアップされるようになると、これは書籍の流通に大変革をもたらすものと思われます。日本国内で世界の新規出版物をリスト化し世界の目録の更新、追加をたえず行なってオーダリングシステムができるかという、これはなかなかできないであろう、と私は考えますけれども、各国の大手国内出版社単位に Wiley Catalog の如きいろんなファイルが編成されて、ファイルを一つ一つ使い分けながらオーダリングしていけば、それなりに書籍の調達合理化につながるであろうと思います。もう少し現実的に把握し易いようにこのことを国内で実行されている日販、東販の例で状況を捕えてみましょう。国内の出版取次ぎについてはご存じのように、日販と東販が大きくシェアを分かち合っておりますけれども、日販でおやりになっております NOCS、東販における TONETS というのはなかなかおもしろいシステムだという感じが致します。比較はちょっとできにくいのですが、NOCS の場合は、現在35万点位書籍がデータベース化されて記憶されています。ところで、本屋さんから書籍の取りよせがこれまでどんな風に行われるかということを概括的に捕えておく必要がありますが、日本の場合は他の国と違いまして、取次店が寡占体制では、2社に依存している。いわゆる書店が2万数千店、出版社が約3千位、これをかけ合わせますと、取り次ぎの工数としては大変なものです、その間に日販と東販が入ることによって、その工数が極

めて小さくなり非常に大きな合理化が流通上行なわれると思います。本屋さんが端末をたゞき、例えば在庫はありますか、というメッセージを入れて、特定書籍の取次店における在庫の有無を確認めます。在庫の場所はどこかという、例えば日販の場合ですと王子流通センターになるのですが、王子流通センターには7万2千点位書籍があるようですけれども、そこにあれば注文を行なった書店に即日送られ、なければ、そこで初めて出版元に手配をしますが、それでも3日か4日で送られてくる、という状況だと思います。いわばデポジットセンターに相当するのが、この日販の場合ですと、王子流通センターだと思います。日販が3千数百人の所帯の中で1300人位が王子流通センターでお働きになっているわけですが、情報活動にはこのデポジットセンターというのが大きな役割を果たすわけです。JOISでも、オンライン検索により必要とされる文献に関し、先程のオーダーに対応できるよう成増に資料館を持っております。ここの運営というのはなかなか大変なのでございますが、こうしたデポジットセンターがあってこそオーダーリングに応ずることができるわけです。従って、日販の場合の王子流通センターの如きデポジットセンターが果してWiley Catalogの如き外国の出版物に対しても可能かどうか大きな問題となりましょう。つまり理想的に言いますと、例えばWiley Catalog/Onlineでオーダーリングをする、そしてオーダーリングした場合にはすぐ即応できる状況にならないと困るわけですが、国内にそうしたデポジットセンターを置くことは投下資本の点からなかなか難かしい問題ではなからうか、という感じがします。

日販や東販の書籍データベースの中にそれぞれ35万点という書籍が登録されていて、これが常時メンテナンスされています。この中に専門書といわれるものが、1割もありましょうか。Wiley Catalog/Onlineの収録約3万点の中で新刊1万点というお話をしましたが、こうした点を勧案するとWiley Catalog/Onlineの如きデータベースが10本程度あれば、かなり総合性ある専門書ファイルが得られることになります。い、換えると、米国に限らず世界の大手出版社から将来、提供されるであろう書籍データベースにオーダーリング機能があれば、それを1ヶ所で管理し、検索をして行くことで全世界の出版物について入手が極めて容易になります。ここ数年、多重複合ファイルの検索という言葉がはやっております。特に、昨年JICSTの第20回情報科学技術研究集

会の中で、多重複合ファイルの検索に関して発表がありました。研究集会の冒頭で、この言葉が飛び出して、「多重複合ファイルって何ですか？」という質問が出たのですが、要するに、大体文献データベースというものはそれぞれ収録文献に偏りがあり、1つのデータベースを検索すればこと足れりというものではないわけです。ですから恐らく、書籍目録より構成されるデータベースがあって、そのオーダーリングが出来るようなものがあったとしても、幾つかの書籍データベースについて必要なものを探し出し、最も望ましいと思われる書籍を購入すればよいことになります。特に今後は、いろんなデータベースが競って出て来ると思いますが、そういうデータベース間で、登録された書籍が重複されている。これは日販のNOCSと、東販のTONETS間でも、見られる現象です。双方を使って重複排除を行いながら、いずれにオーダーリングしたら良いかという点をつきとめてなければ、効率の良い適性情報収集ができない。文献レベルでもオンラインの検索時に同じ様なことが起こりまして、例えば医学の情報で、アメリカの国立医学図書館(NLM)から提供されておりますMEDLINEというのは医学のデータベースとして非常に大きな柱になっておりますけれども、その他基礎医学に強いExcerpta Medica(オランダから提供)があり、更に生物系としてBIOSISというデータベースがあります。これ等を平行して検索してみますと、境界域では同じ文献が出て来るわけですね。同じ傾向、あるいは全く同一の文献が出て来るけれども併用せざるを得ないというのは、データベースの間で専門分野に関し強い、弱い、という傾向があるために、見落としがないようにするという配慮はいくつかのデータベースに対し手綱をとりながら検索をして行くことをやっております。同様なことが、今の書籍データベースの検索についても言えるのではないのでしょうか。以上のお話は書籍の入手、文献の入手を中心に幾つかのデータベースを操ることを奨めたわけですが、図書館、図書室、資料館の利用を中心に考えた場合には所蔵目録を極めて精度高く編成して利用する考え方があります。特に、所蔵目録の中で興味をもたれたのは西ドイツでのODINといわれる発想です。実現を前に息切れしたということから幻のOnline Dokumentation Information Netz(ODIN)と言われているのですが、これは5～6年前から、ドイツの中枢的情報機関(GID)が考えていたシステムです。先程お話しし

ました様に西ドイツでは情報のテリトリーが16通りに分かれていてその16のシステムの中に、いわゆる情報機関の数が約200あり、この200の機関がそれぞれ分担して文献情報を集めています。日本はJICSTを中心に総合的に収集しておりますけれども、ドイツでは分担しているのが実情です。しかもそういう機関に所蔵する逐次刊行物に、案外欠落があるのですね。それでも最低条件として、200機関の中でどここの機関に行ったら文献を入手できるか案内が必要になります。ところが、それだけでは足りませんので、このODINというのは、さらにドイツ各州のいろんな公共的な機関、あるいは州の図書館400機関を示し、こういう文献がこういう所に所蔵されていますという具合に資料の利用に対し協力可能な所を示唆するのです。これは約200の情報機関の外側に400の協力機関を資料入手の応援部隊として組織化することを前提にしたシステムです。さらに民間会社の中でも、相互貸出しの形式で、うちの図書をお使いになっても良いですよ、というような立候補機関があります。それが最も外側に位置する400機関になります。合わせて1000機関。それを何とか総合的にコントロールすれば、大体必要な科学技術情報が集まるというのがODINの構想でありまして、西ドイツ政府サイドでのナショナルミニマムの指向からのアイディアと申せましょう。つまり国の持っている資産を有効に活用するということで、ドイツ連邦研究技術省(BMFT)の傘下にあるGID(情報ドクメンテーション協会)が中心になりまして、このシステムの構築に当たったわけです。ドイツは昔からゲルマン民族的気風で、国家的施策に協力することに定評がありましたが、この方策については構想倒れになり、実際にはこれは出来なかったといわれ、ODIN、つまりオ・ディン変じてお・じゃんになったというお話でございます。文献なり、書籍についてはオーダリングにより確保するという考え方があ

るのは当然として、ニーズが、情報源のテリトリー上でも塑性性の上でも多様化しているので、資料を公開できる社会性の高い機関の協力を得て所蔵目録の活用をはかるという考え方が出てくるのも当然ですが、こうしたユニオンカタログ思想の実現は、メンテナンスも含めかなりの負担がかかり大変なことだと思います。しかし現実には、そういうことはいろんな所で行われています。

次に、「一次情報蓄積提供の先端技術化」についても出版社や流通業にとっては大きな問題であり、驚異と思われますので、こうした先端技術が歓迎される背景となっている情報の量的問題を、今日は対象を書籍に絞り、捕えてみたいと思います。身近な話になりますが年間日本出版市場というのは1兆5千億円位と言われている。これとは別に日本が輸入している洋書は約300億円+ $\alpha$ ということです。それから、日本から海外へ輸出している本というのは、200数十億とや、少ない状態ですがこれから想像するに書籍については貿易摩擦が起こるような可能性は毛頭ないわけですが、問題は、日本での刊行出版物を細かく分析すると年間に書籍で9億6千冊、これとは別に月刊誌、週刊誌合わせますと20億冊位になります。つまり書籍と合わせて約30億冊、いわば日に約1200万冊もの冊子体が発生しています。日に1200万冊の話が、先程の3000の出版社と、2万数千の書店でつながれているわけです。この量的な負担を、極めて特定化した取次店が行っているわけでございます。日本の取次店の寡占体制に近い状態は西側ではイタリア等わづかで、アメリカその他の国では、そういう点では日本と非常に違っている。そういう配慮すべき既存の寡占体制がないという状況から主として出版社や出版社のグループが光ディスク、通信ネットワーク、大型コンピュータを駆使して流通改革をはかることになります。(つづく)

### Price correction !

#### MÜNNICH, CARL HEINRICH WILHELM

Der Elbstrom, von seinem Ursprunge bis zu seiner Mündung in die Nordsee, malerisch, topographisch und historisch dargestellt. Treu nach der Natur gezeichnet und lithographiert von C. W. Arldt und R. Bürger, herausgegeben von C. G. Semmler, mit Text von C. H. W. Münnich. Dresden (1845). (Reprint Leipzig 1984). Quer 4°. Mit 156 Tafeln. 3 Bl., 312 S.

Price : Bound DM62.--

We already advertised this title in the periodical JBJA DIRECTORY.

Unfortunately, we have made a mistake as concerns the price of our book. The given price was DM 112.--, the correct price is DM 62.--.

Zentralantiquariat der Deutschen Demokratischen Republik DDR-7010 Leipzig, Talstrasse 29

# 反町茂雄「日本の古典籍、その面白さ、尊さ」

八木書店 昭和59年4月 530pp ¥3,500

## 同 「菟書家、業界、業界人」

八木書店 昭和59年6月 402pp ¥3,200

反町（そりまち）氏は、著名な古書業界人であり、業者の立場から日本出版文化史に接近し、これに比較文化史を加え、この方面でも第一人者となった方である。

頭記の二つの書物は、もともと一つのものとして編集されたが、分厚に過ぎて二冊に分けられたもの。併読をおすすめする。

私が反町氏に興味を持ったのは、昭和45年12月15日付の日本経済新聞文化欄に、「古書天国日本、世界一の宝庫に改めて驚く」という小論が掲載されたことに始まる。勿論それまでも古書業界の大先達としてのお名前は存じ上げていたが、この小記事で、同氏が「古典籍を扱って四十年、日本古典籍の古さと量の多さにますます驚かされる。いったいこの面で日本は世界でどのような位置を占めているのか、という疑問を私はかなり以前から抱いていた。ところが残念ながらこの問いに解答を与えた人もいなければ、正面切って取り

上げる人もいなかった。」と、永年の問題意識を明らかにし、いささかの答えを出しておられることに深い共感を覚えたためである。

同氏のこの問題意識は、更に持続し発展し、その集大成が「日本の古典籍」となっている。それだけでなく、学会会報の最近号No.765を見ていたら、「日本の古典籍の価値」と題した小論文に気付いたので、これからも更に更に追及を続けられるのであろう。

「菟書家、業界、業界人」の方は、業界人の書いた得難い業界史となっている。古書の業界は、洋書輸入の業界と部分的に重なり合っていて、いわば洋書業界の隣組の業界とでもいうべきもの、種々の面で参考になることが多い。

この他にも、永年の経験の中から得られたエピソードの類が盛られているので、読んでいて飽きない。出色の本である。  
(相良記)

### 来 日 外 人 名 籍

- 9月中旬 Mr. P. J. Gispen, Sales Manager,  
E. J. Brill, Netherlands  
" Mr. J. Krämer, Managing Director,  
J. C. B. Mohr (Paul Siebeck),  
F. R. Germany  
" Mr. Jim Harmon, General Manager,  
Mr. L. Koch, Regional Manager,  
John Wiley, USA  
10月中旬 Dr. Thomas Karger, Managing Director,  
S. Karger AG, Switzerland  
" Mr. Borot, Sales Manager,  
Larousse, France  
" Mr. Savoye, Gallimard, France

### 総代理店ご案内

- 中央洋書株式会社 ☎(03)294-5151/4  
National Medical Series for Independent Study  
: Anatomy 予価 ¥6,300  
: Biochemistry 予価 ¥6,300  
: Histology & Embryology 予価 ¥5,600  
: Microbiology 価格未定  
: Pathology 予価 ¥5,950  
: Pharmacology 予価 ¥5,950  
: Physiology 予価 ¥5,950  
以下続刊 (John Wiley & Sons Inc., U. S. A.)  
丸 善株式会社 ☎(03)272-7211  
Princeton Scientific Publishers, Inc., U. S. A.  
.....All publications

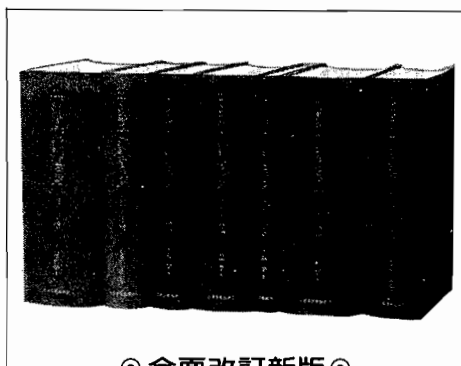
12万人の情報を専門別に編集!

昭和60年1月発売

# 研究者・研究課題総覧 1984

監修 文部省学術国際局

編集 日本学術振興会



◎ 全面改訂新版 ◎

## ■ 特 色 ■

- 大学等の教授から助手までの研究者12万人を網羅
- 我が国の大学等における研究動向を知る最新の情報源
- 208の専門分野に細分，一人につき3分野から検索可能
- 人名索引は五十音別に加えて研究機関別も作成
- 文部省が実施した「昭和58年度学術研究活動に関する調査」により作成

## <内 容>

- 収録対象及び人員：大学，短期大学(部)，高等専門学校，国立大学共同利用機関，文部省所轄機関，文化庁附属機関及び文部省所管民間学術研究機関に所属する研究者  
⇒約119,500人
- 収録事項：氏名・同読み，生年月日，所属機関・職名，最終出身学校(学部・大学院)，取得学位，受賞学術賞，所属学会，現在の研究課題(3課題まで)，主要著書又は発表論文(3点まで)

定 価

人文・社会科学編 人文科学，社会科学・索引———2分冊 39,000円

自 然 科 学 編 理学，工学，農学，医学，複合領域・索引——5分冊 101,000円

B5判 上製本 7ポイント 約8,200ページ 全7分冊 140,000円

## 予約募集

人文・社会科学編 セット予約特価  
自 然 科 学 編 120,000円

昭和59年12月末日まで 所定の注文書に御記入のうえ日本学術振興会又は丸善本・支店にお申込みください。

※御希望の方には，リーフレットをお送りしますので，その旨御連絡ください。

発行所  
発売元

日本学術振興会  
丸 善 株 式 会 社

102 東京都千代田区麹町5-3-1 電話(03)263-1721  
103 東京都中央区日本橋3-9-2 電話(03)272-0331

昭和59年11月 通巻211号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル603号室 ☎271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329